

(様式第 10)

医大病第 412 号  
平成 28 年 9 月 30 日

北海道厚生局長 殿

北海道公立大学法人札幌医科大学  
理事長 塚本 泰司

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

札幌医科大学附属病院
------------

3 所在の場所

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目	電話(011)611-2111
-----------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
1 神経内科 2 3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名	
1 心臓血管外科 2 呼吸器外科 3 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科口腔外科 2 矯正歯科 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科 2 形成外科 3 リハビリテーション科 4 病理診断科 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	6床	床	890床	938床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	240人	228.6人	468.6人	看 護 補 助 者	104人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	8人	19.9人	27.9人	理 学 療 法 士	28人	臨 床 検 査 技 師	57人
薬 剤 師	52人	0人	52人	作 業 療 法 士	5人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	27人	1.9人	28.9人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	762人	38.2人	800.2人	臨 床 工 学 士	19人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	0人
准 看 護 師	0人	1.1人	1.1人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	7人
歯 科 衛 生 士	3人	1人	4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	132人
管 理 栄 養 士	6人	2人	8人	診 療 放 射 線 技 師	49人	そ の 他 の 職 員	33人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年6月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25人	眼科専門医	6人
外科専門医	25人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	9人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	15人	脳神経外科専門医	16人
皮膚科専門医	12人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	15人	麻酔科専門医	18人
産婦人科専門医	15人	救急科専門医	15人
		合 計	209人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 山下 敏彦 ) 任命年月日 平成22年4月1日

平成22年4月1日～平成26年3月31日	医療安全推進部長
平成22年4月1日～平成26年3月31日	医療事故防止対策委員会委員長
平成22年4月1日～平成26年3月31日	医療クオリティ審議委員会副委員長
平成26年4月1日～現在	医療クオリティ審議委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	710.6人	24.3人	734.9人
1日当たり平均外来患者数	1719.1人	95.3人	1814.4人
1日当たり平均調剤数	1,384.9剤		
必要医師数	174.7875人		
必要歯科医師数	9.0人		
必要薬剤師数	25.0人		
必要(准)看護師数	429.0人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	245.7 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	103.8 m <sup>2</sup>	病床数	5床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	204.9 m <sup>2</sup>			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	165.0 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、免疫化学自動分析装置、精製水作製装置 など			
細菌検査室	50.4 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 細菌同定用質量分析装置、安全キャビネット、感受性分析装置 など			
病理検査室	185.7 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 凍結ブロック作製装置、自動染色装置、パラフィン包埋ブロック作製装置 など			
病理解剖室	52.3 m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 解剖台、无影灯、写真撮影装置 など			
研究室	1006.8m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 書棚、パソコン、プリンター、プロジェクター、スクリーン など			
講義室	619.8 m <sup>2</sup>	〃	室数	2室	収容定員	544人
図書室	2312.1m <sup>2</sup>	〃	室数	3室	蔵書数	226,200冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	73.1%	逆紹介率	58.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	14,093人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,037人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	945人	
	D: 初診の患者の数	20,571人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	無
委員の選定理由の公表の有無	無
公表の方法	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外自家血注入療法	1人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
カペシタビン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	75
2	筋萎縮性側索硬化症	34	57	特発性拡張型心筋症	59
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	54
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	7	60	再生不良性貧血	28
6	パーキンソン病	108	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	53
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	125	66	IgA腎症	1
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	5
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	107	68	黄色靱帯骨化症	5
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	17	69	後縦靱帯骨化症	85
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	84
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	12
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	39	73	下垂体性TSH分泌亢進症	5
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	6
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
22	もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	7
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	49
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	38	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	90
30	遠位型ミオパチー	2	85	特発性間質性肺炎	46
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	19
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	11
34	神経線維腫症	22	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	20	90	網膜色素変性症	30
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	52
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	34	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	56
42	結節性多発動脈炎	15	97	潰瘍性大腸炎	120
43	顕微鏡的多発血管炎	24	98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症	13	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	6	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	191	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	79	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	106	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	35	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	377	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	8	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群		194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	259		レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	260		シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261		タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262		原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	263		脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	264		無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病	265		脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	266		家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	267		高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	268		中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	269		化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	270		慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271		強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎	272		進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	273		肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	2	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1	ハイリスク妊娠管理加算
特定機能病院入院基本料 ※結核:7対1	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料 ※精神:10対1	救急搬送患者地域連携紹介加算
臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	呼吸ケアチーム加算
臨床研修病院入院診療加算※単独又は管理(歯科)	後発医薬品使用体制加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算2
妊産婦緊急搬送入院加算	データ提出加算1
診療録管理体制加算2	データ提出加算2
医師事務作業補助体制加算 40対1	退院支援加算2
急性期看護補助体制加算50対1	精神疾患診療体制加算
看護職員夜間配置加算 16対1	救命救急入院料1
療養環境加算	救命救急入院料4
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算1	新生児特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算2	新生児治療回復室入院医療管理料
緩和ケア診療加算	小児入院医療管理料2(加算あり)
精神科身体合併症管理加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
精神科リエゾンチーム加算	歯科外来診療環境体制加算
重度アルコール依存症管理加算	歯科診療特別対応連携加算
がん診療連携拠点病院加算	地域歯科診療支援病院入院加算
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
植込型除細動器移行期加算	時間内歩行試験
高度難聴指導管理料	ヘッドアップティルト試験
外来リハビリテーション診療料	皮下連続式グルコース測定
外来放射線照射診療料	長期継続頭蓋内脳波検査
糖尿病合併症管理料	神経学的検査
がん性疼痛緩和指導管理料1,2	補聴器適合検査
がん患者指導管理料1	小児食物アレルギー負荷検査
がん患者指導管理料2	内服・点滴誘発試験
がん患者指導管理料3	センチネルリンパ節生検1併用法
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	CT透視下気管支鏡検査加算
糖尿病透析予防指導管理料	画像診断管理加算1(医科のみ、歯科はなし)
がん治療連携計画策定料1,2	遠隔画像診断
がん治療連携管理料	ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影
肝炎インターフェロン治療計画料	CT撮影及びMRI撮影
薬剤管理指導料	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料1	大腸CT撮影加算
医療機器安全管理料2	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	乳房MRI撮影加算
造血器腫瘍遺伝子検査	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
遺伝学的検査	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料
検体検査管理加算(Ⅳ)	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝カウンセリング加算	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
植込型心電図検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
胎児心エコー法	がん患者リハビリテーション料

施設基準の種類	施設基準の種類
救急患者精神科継続支援料	経皮的冠動脈形成術
精神科ショート・ケア	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	経皮的冠動脈ステント留置術
医療保護入院等診療料	経皮的大動脈弁置換術
硬膜外自家血注入	経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)
エタノールの局所注入(甲状腺)	経皮的中隔心筋焼灼術
透析液水質確保加算	ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
下肢抹消動脈疾患指導管理加算	埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
一酸化窒素吸入法	両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術
医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	埋込型除細動器移植術、埋込型除細動器交換術
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	両室ペースング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペースング機能付き埋込型除細動器交換術
組織拡張器による再建手術(乳房の場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
骨移植術(自家培養軟骨移植術)	補助人工心臓
内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方切除に限る。)	経皮的大動脈遮断術
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	ダメージコントロール手術
脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	胃瘻造設術
脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	胆管悪性腫瘍手術(膵島十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	腹腔鏡下肝切除術
緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)	生体部分肝移植術
人工内耳埋込術	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
植込型骨導補聴器移植術及び交換術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	同種死体腎移植術
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	生体腎移植術
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	膀胱水圧拡張術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	人工尿道括約筋植込・置換術

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	歯科矯正診断料
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	顎口腔機能診断料
輸血管理料Ⅰ	
自己生体組織接着剤作成術	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
内視鏡手術用支援機器加算	
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
麻酔管理料Ⅰ	
麻酔管理料Ⅱ	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療加算	
体外照射呼吸性移動対策加算	
直線加速器による定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
密封小線源治療の注8に掲げる画像誘導密封小線源治療加算	
病理診断管理加算2	
歯科治療総合医療管理料	
歯科口腔リハビリテーション2	
上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科)	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術(1顎一連につき)	
クラウン・ブリッジ維持管理料	
CAD/CAM冠	
歯科技工加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
硬膜外自家血注入	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	49
剖 検 の 状 況	剖検症例数 14 例 / 剖検率 11.3 %



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ムコイド型肺炎球菌の薬剤抵抗性の解明	宮本 篤	医療薬学	1,100,000	(補委) 文部科学省
自己免疫性網膜炎の発症機序の解明	大黒 浩	眼科学講座	1,300,000	(補委) 文部科学省
脂質分解酵素による眼内浄化機構の解明	平岡 美紀	眼科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
有機リン中毒性痙攣に対するアトロピンおよびプラリドキシムの治療的効果の実験的検証	成松 英智	救急医学講座	800,000	(補委) 文部科学省
クロー遺伝子が皮下脂肪織および皮膚創傷治癒に及ぼす影響について	山内 誠	形成外科学	1,100,000	(補委) 文部科学省
ケロイドにおけるMFAP5の機能解析と新規治療薬の開発	池田 佳奈枝	形成外科学	900,000	(補委) 文部科学省
口腔がんに対する新規がんペプチドワクチン療法の基礎的・臨床的研究	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	800,000	(補委) 文部科学省
口腔扁平上皮癌に対する新規癌抗原の同定と臨床応用に向けての研究	小林 淳一	口腔外科学講座	1,200,000	(補委) 文部科学省
口腔がん細胞の代謝調節を標的とした新規治療法の開発	荻 和弘	口腔外科学講座	500,000	(補委) 文部科学省
口腔癌におけるceRNAの探索と病的意義の解明	西山 廣陽	口腔外科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
肺サーファクタント蛋白質の新作用を応用した肺傷害・線維化制御	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	900,000	(補委) 文部科学省
肺コレクチンによる肺炎球菌感染症の重症化阻止機構の解明と臨床応用	黒沼 幸治	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,700,000	(補委) 文部科学省
てんかん症例のバルブロン酸誘導多嚢胞性卵巣症候群のエピジェネティクス研究	遠藤 俊明	産科周産期科学	500,000	(補委) 文部科学省
子宮頸癌への細胞障害性Tリンパ球を介した新規ペプチドワクチン療法の開発と臨床応用	斉藤 豪	産婦人科学講座	1,300,000	(補委) 文部科学省
妊娠高血圧腎症における胎盤増殖因子低下機序の解明と小胞体ストレスとの関連性の解析	水内 将人	産婦人科学講座	900,000	(補委) 文部科学省
抗ウイルス自然免疫応答解析による上気道疾患病態解明と治療戦略個別化の探索	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	3,000,000	(補委) 文部科学省
上皮細胞極性と器官形成シグナル制御による咽頭がん浸潤・転移抑制因子の探索	近藤 敦	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	(補委) 文部科学省
鼻粘膜におけるロイコトリエンE4受容体-GPR99の役割と新しい治療への応用	白崎 英明	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	(補委) 文部科学省
ヒト鼻粘膜上皮におけるtricellular junctionの形態・機能解析	大國 毅	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
頭頸部がんにおけるタイト結合関連分子JAM-Aを用いた補助診断および分子標的治療	黒瀬 誠	耳鼻咽喉科学講座	1,400,000	(補委) 文部科学省
ヒト唾液腺上皮に着目したIgG4関連疾患における線維化メカニズムの解明	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	1,600,000	(補委) 文部科学省
III型インターフェロンサブタイプ相互干渉解析によるウイルス自然除去因子の探索	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	1,100,000	(補委) 文部科学省
小児咽頭扁桃における抗原提示細胞の機能解析に基づくDDSを介した新たな治療戦略	小笠原 徳子	耳鼻咽喉科学講座	400,000	(補委) 文部科学省
ヒトT(FH)細胞分化モデルによる免疫アレルギー治療の研究	長屋 朋典	耳鼻咽喉科学講座	900,000	(補委) 文部科学省
唾液腺上皮および線維芽細胞に着目したIgG4関連疾患の病態解析	阿部 亜由美	耳鼻咽喉科学講座	1,700,000	(補委) 文部科学省
小児扁桃肥大への濾胞ヘルパーT細胞の関与と分化誘導解析によるSAS治療への応用	坪松 ちえ子	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	(補委) 文部科学省
高度侵襲後の胃蠕動低下とグレリン濃度変化、および六君子湯の有効性の検討	巽 博臣	集中治療医学	1,300,000	(補委) 文部科学省
胃癌のBH3 プロファイリングに基づく新規抗がん剤感受性試験の開発および予後予測	河野 豊	腫瘍・血液内科学講座	1,100,000	(補委) 文部科学省
ナローバンドUVBによる制御性T細胞の誘導を介したGVHDに対する新規治療の開発	佐藤 勉	腫瘍・血液内科学講座	800,000	(補委) 文部科学省
ChIPSeqによる多発性骨髄腫に対するBCL9関連新規治療標的分子の網羅的探索	高田 弘一	腫瘍・血液内科学講座	600,000	(補委) 文部科学省
Liquid biopsy及びDigitalPCRを用いた高感度胃癌診断法の開発	佐藤 康史	腫瘍・血液内科学講座	1,900,000	(補委) 文部科学省
DPP8/9阻害剤を用いた新たな多発性骨髄腫の治療法の開発	井山 諭	腫瘍・血液内科学講座	1,900,000	(補委) 文部科学省

小計 32

NASHからの肝発癌における酸化的DNA傷害程度と修復能の検討と治療応用	宮西 浩嗣	腫瘍・血液内科学講座	2,000,000	(補委)	文部科学省
MDS・AML由来エクソソームによる間質機能修飾機構の解析と新規治療法の開発	小船 雅義	腫瘍・血液内科学講座	1,800,000	(補委)	文部科学省
高次元サイトメトリー法によるGVHD制御細胞の包括的解析と予後因子の同定	村瀬 和幸	腫瘍・血液内科学講座	1,600,000	(補委)	文部科学省
末梢血中のフコシル転位酵素mRNA検出による新規膀胱癌迅速診断法の開発	加藤 淳二	腫瘍・血液内科学講座	800,000	(補委)	文部科学省
グリコーゲン合成酵素キナーゼ3βのミトコンドリア移行抑制による心不全治療の開発	丹野 雅也	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	700,000	(補委)	文部科学省
心筋細胞のネクロプトーシスにおけるミトコンドリア透過性遷移の役割	三浦 哲嗣	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	900,000	(補委)	文部科学省
ヒト小型肝幹細胞移植の臨床応用に向けた基盤的臨床前研究	平田 公一	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	1,800,000	(補委)	文部科学省
膵頭十二指腸切除術後胃排泄遅延の予防・治療を目的とした介入研究	木村 康利	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	900,000	(補委)	文部科学省
肝切除術後肝不全予防のための術中ビリオモニタリングによる新規管理法の開発	目黒 誠	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
過冷却プログラム凍結したヒト肝幹細胞を利用した再生外科治療の橋渡しの基礎研究	水口 徹	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	1,100,000	(補委)	文部科学省
次世代シーケンサーを用いた大腸癌末梢血の抗EGFR抗体非侵襲的感受性診断の検討	竹政 伊知朗	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	1,400,000	(補委)	文部科学省
炎症発癌に対する間葉系幹細胞のchemoprevention機構の解明	本谷 雅代	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	900,000	(補委)	文部科学省
間葉系幹細胞依存性腫瘍増殖機構の解明	苗代 康可	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	800,000	(補委)	文部科学省
骨髄-腸管連関の解明と治療応用	山下 健太郎	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,100,000	(補委)	文部科学省
腸上皮幹細胞ニッチの再構築と治療応用	有村 佳昭	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,400,000	(補委)	文部科学省
内皮細胞特異的スプライシングバリエーションからアプローチする癌微小環境の分子病態解析	山本 英一郎	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,500,000	(補委)	文部科学省
多発性骨髄腫のゲノムメチル化からアプローチする悪性化機構と新規治療標的	石田 禎夫	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,500,000	(補委)	文部科学省
発達脳に対する虚血および骨髄間葉系幹細胞移植の及ぼす影響の基礎的解析	坂井 拓朗	小児科学講座	1,000,000	(補委)	文部科学省
急性移植片対宿主病の病態解析及びその分子標的療法の開発	山本 雅樹	小児科学講座	1,000,000	(補委)	文部科学省
ワクチン導入によるロタウイルス分子疫学的変化～G8遺伝子型の流行を通じて～	津川 毅	小児科学講座	1,100,000	(補委)	文部科学省
顔表情認知に関与する2つの神経経路のダイナミクス特性の解明	篠崎 淳	神経科学講座	500,000	(補委)	文部科学省
神経新生と血小板機能の接点に着目したアルコール関連気分障害の新規診断マーカー開発	石井 貴男	神経精神医学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
回復するうつ病治療: 治癒阻害因子から解明する脳神経回路網修復促進ストラテジー	橋本 恵理	神経精神医学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
統合失調症の社会機能回復-細胞とオキシトシンを用いた"共感性/気遣い"の脳解析	鶴飼 涉	神経精神医学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
病院内の自殺事故の実態調査および病院管理者と医療者に対する自殺予防教育	河西 千秋	神経精神医学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
レビー小体型認知症におけるレム睡眠行動障害の診断・治療法の応用	小林 清樹	神経精神医学講座	1,400,000	(補委)	文部科学省
精神症状(BPSD)を主体とする新規PS1変異アルツハイマー病モデルマウスの開発	川又 純	神経内科学講座	2,100,000	(補委)	文部科学省
アルツハイマー病病理におけるEPRイメージングを用いた酸化ストレス評価と病態解明	松村 晃寛	神経内科学講座	1,000,000	(補委)	文部科学省
慢性期脊髄損傷に対する骨髄間葉系幹細胞移植による革新的治療法の開発	森田 智慶	整形外科科学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
骨粗鬆症における骨組織内の骨代謝/疼痛関連分子の発現変化と疼痛発生機序の解明	射場 浩介	整形外科科学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
膝靭帯のバイオメカニクス研究	鈴木 智之	整形外科科学講座	900,000	(補委)	文部科学省
がん幹細胞特異抗体を用いた悪性膠芽腫に対する分子標的療法の開発	鰐川 昌彦	脳神経外科学講座	1,400,000	(補委)	文部科学省
脳血流と脳波の簡易同時記録機器の開発	三國 信啓	脳神経外科学講座	1,300,000	(補委)	文部科学省
脳脊髄液漏出症における神経放射線画像の解析および診断精度向上への応用	堀田 祥史	脳神経外科学講座	500,000	(補委)	文部科学省
尿路感染症に対するサーファクタント蛋白質Aの防御機構の解明と臨床応用	橋本 次朗	泌尿器科学講座	1,300,000	(補委)	文部科学省

小計 35

HSP90阻害剤を用いた臓器移植後拒絶反応に対する新規分子標的治療法の開発	前鼻 健志	泌尿器科学講座	1,500,000	(補委)	文部科学省
機能的アッセイによる悪性黒色腫の腫瘍関連遺伝子の同定と解析	山下 利春	皮膚科学講座	1,300,000	(補委)	文部科学省
AD患者皮膚における皮膚バリアタンパク・シスタチンAの発現解析	菅 裕司	皮膚科学講座	500,000	(補委)	文部科学省
大きく不定形な動脈瘤に対する機能温存塞栓術の開発	廣川 直樹	放射線医学講座	600,000	(補委)	文部科学省
臨床応用が可能な実用的な放射線感受性予測法の開発	坂田 耕一	放射線医学講座	1,600,000	(補委)	文部科学省
バイオマーカーを用いた腹部骨盤部放射線治療後の治療効果および有害事象予測	染谷 正則	放射線医学講座	1,300,000	(補委)	文部科学省
塞栓動脈瘤内部の病理組織学的検証および使用コイルの最適化	宇佐見 陽子	放射線医学講座	1,500,000	(補委)	文部科学省
DNA修復蛋白の発現を利用した放射線治療効果の予測	長谷川 智一	放射線医学講座	1,300,000	(補委)	文部科学省
IVIMイメージングによる化学放射線治療効果・予後予測法確立	畠中 正光	放射線診断学	1,400,000	(補委)	文部科学省
実験的脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植によって誘導される神経可塑性の解析	長濱 宏史	放射線診断学	1,300,000	(補委)	文部科学省
視床皮質ニューロンのトランスクリプトーム解析による吸入麻酔薬の作用機序の解明	山蔭 道明	麻酔科学講座	3,000,000	(補委)	文部科学省
内皮グリコカリクスの障害および麻酔薬による保護作用の検討	時永 泰行	麻酔科学講座	1,000,000	(補委)	文部科学省
亜硝酸塩と新規代用血漿剤を用いた出血性ショックに対する新たな治療戦略の開発	平田 直之	麻酔科学講座	800,000	(補委)	文部科学省
デスフルランはなぜ術後認知機能低下を防ぐのか:高齢者の細胞骨格関連遺伝子の解析	山蔭 道明	麻酔科学講座	500,000	(補委)	文部科学省
レミマブラムによる炎症性肺疾患の新しい麻酔戦略	岩崎 創史	麻酔科学講座	1,200,000	(補委)	文部科学省
敗血症病態におけるスガマデクスによる筋弛緩拮抗機序の解明と臨床現場への提言	高橋 和伸	麻酔科学講座	800,000	(補委)	文部科学省
超音波造影剤による新たな神経ブロック法の確立	佐々木 英昭	麻酔科学講座	300,000	(補委)	文部科学省
高血圧性肥太心筋に対するデクスメトミジンの直接心筋保護効果	吉川 裕介	麻酔科学講座	800,000	(補委)	文部科学省
有機リン中毒性痙攣の危険因子、および各種抗痙攣薬の治療効果の研究	高田 幸昌	麻酔科学講座	500,000	(補委)	文部科学省
トランスクリプトーム解析による術後悪心嘔吐の予測マーカーの確立	早瀬 知	麻酔科学講座	1,100,000	(補委)	文部科学省
エピジェネティクスを通じた術後認知機能障害の発症の機序解明	立花 俊祐	麻酔科学講座	1,100,000	(補委)	文部科学省
敗血症心筋ミトコンドリアに対する亜硝酸塩の保護作用機序の解明	川口 亮一	麻酔科学講座	2,000,000	(補委)	文部科学省
外傷性脳損傷者の復職指導に関する研究－「職業の認知的要求尺度」作成の試み－	石合 純夫	リハビリテーション医学講座	900,000	(補委)	文部科学省
骨髄間葉系幹細胞移植およびリハビリによって誘導される虚血脳の可塑性の基礎的解析	佐々木 雄一	リハビリテーション医学講座	1,300,000	(補委)	文部科学省
パーキンソン病の認知機能障害の神経基盤:脳賦活、機能的・構造的結合、血流解析	服部 高明	リハビリテーション医学講座	900,000	(補委)	文部科学省
心血管・代謝疾患における分泌型および異所性発現型脂肪酸結合タンパクの役割解明	古橋 真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,100,000	(補委)	文部科学省
早期食道癌のゲノム・エピゲノムの網羅的解析と内視鏡洗浄廃液による分子診断の開発	篠村 恭久	—	1,500,000	(補委)	文部科学省
介護家族と介護職における主観的ウェルビーイングの向上をめざす心理介入的アプローチ	本間 真理	リハビリテーション医学講座	200,000	(補委)	北翔大学
双極性障害の原因神経回路の解明	鵜飼 渉	神経精神医学講座	4,450,000	(補委)	国立研究開発法人 理化学研究所
非淋菌性尿道炎に関わる細菌およびウイルスの疫学、治療に関する総括的研究	高橋 聡	泌尿器科学講座	300,000	(補委)	産業医科大学
「慢性の痛みの語り」の映像を用いた慢性痛患者への看護支援モデル構築と評価	本間 真理	リハビリテーション医学講座	70,000	(補委)	自治医科大学
慢性の痛み語りデータベース構築と生活の再構築に関する研究	本間 真理	リハビリテーション医学講座	200,000	(補委)	自治医科大学
乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア:臨床応用をめぐる断続的研究	本間 真理	リハビリテーション医学講座	50,000	(補委)	日本女子大学
がん患者の家族から遺族へ高齢者を対象とした継続的なケアシステムの開発一	河西 千秋	神経精神医学講座	150,000	(補委)	埼玉医科大学
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	舛森 直哉	泌尿器科学講座	500,000	(補委)	東京大学

小計 35

がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	能正 勝彦	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	5,000,000	補委	東京大学
肺血症におけるnucleophosminの動態と制御法の検討	升田 好樹	集中治療医学講座	600,000	補委	東京医科大学
I-123 IMPを用いた分子イメージング手法による眼窩悪性黒色腫診断法の確立	磯田 拓郎	放射線診断学	30,000	補委	東京女子医科大学
MR分子イメージングによる脳内アミロイド検出法の開発:PET/MRIを用いた研究	磯田 拓郎	放射線診断学	200,000	補委	鹿児島大学
尿路上皮癌に対する新規化学免疫療法の確立	前田 俊浩	泌尿器科学講座	134,298	補委	富山大学
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為にNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	平田 公一	消化器・総合・乳腺・内分泌科学講座	16,800,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	500,000	補委	京都大学
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	100,000	補委	熊本大学
びまん性肺疾患に関する調査研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	300,000	補委	東邦大学
成人の重症肺炎サーベイランス構築に関する研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	500,000	補委	国立感染症研究所
がん登録等の推進に関する法律下におけるがん登録情報の活用の実際に関する研究	平田 公一	消化器・総合・乳腺・内分泌科学講座	250,000	補委	国立がん研究センター
小児摂食障害におけるアブカム程度の開発に関する研究-学校保健における思春期やせの早期発見システム構築、および発症要因と予後因子の抽出に向けて-	須見 よし乃	小児科学講座	350,000	補委	東京都立小児総合医療センター
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	名越 智	生体工学・運動器治療開発講座	150,000	補委	大阪大学
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	山下 敏彦	整形外科	200,000	補委	愛知医科大学
下痢症ウイルスの分子疫学と感染制御に関する研究	津川 毅	小児科学講座	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
進行膀胱がんを対象とした複合型CTLワクチン療法第2相試験	水口 徹	消化器・総合・乳腺・内分泌科学講座	36,248,370	補委	日本医療研究開発機構
多系統萎縮症の自然歴とその修飾因子に関する研究	下濱 俊	神経内科学講座	300,000	補委	北海道大学大学院
次世代シーケンシング・ゲノムワイド関連解析を用いたC型肝炎治療に伴う肝病態進展軽快、肝発癌に関わる宿主因子の解析	宮西 浩嗣	腫瘍・血液内科学講座	384,616	補委	北海道大学
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	加谷 光規	整形外科科学講座	500,000	補委	九州大学
インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発	井山 諭	腫瘍・血液内科学講座	400,000	補委	岡山大学病院
脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	76,924	補委	山形大学
小児期のウイルス性肝炎の病態解明や科学的根拠の集積等に関する研究	要藤 裕孝	臨床医学部門講座 / 小児科学講座	400,000	補委	大阪府立急性期・総合医療センター
IgG4関連疾患の病因病態解明と新規治療法確立に関する研究	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	1,000,000	補委	京都大学
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	500,000	補委	福井大学
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	下濱 俊	神経内科学講座	650,000	補委	九州大学大学院
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	舛森 直哉	泌尿器科学講座	230,000	補委	九州大学大学院
びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	200,000	補委	東邦大学
平成27年度子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	遠藤 俊明	産婦人科学講座	260,870	補委	北海道大学
K-ras 変異がんに対するGST-πを標的とした新規治療法戦略	新津 洋司郎	分子標的探索講座	12,272,728	補委	日本医療研究開発機構
札幌医大におけるDPCデータ、電子カルテ情報を利用した疾患登録のValidation	土橋 和文	病院管理学講座	700,000	補委	国立循環器病研究センター
ロタウイルス胃腸炎に関する疫学調査-ロタウイルスワクチンの有効性に関する症例対照研究-	津川 毅	小児科学講座	1,091,339	補委	国立大学法人佐賀大学
認知症に対する総合的なリハビリテーションシステムの構築に関する研究	石合 純夫	リハビリテーション医学講座	300,000	補委	国立長寿医療センター

計 134

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	阿久津典之	消化器内科学講座	Development of hypertension within 2 weeks of initiation of sorafenib for advance hepatocellular carcinoma is a predictor of efficacy.	Int J Clin Oncol 2015, 20:105-110
2	能正勝彦	消化器内科学講座	Clinicopathological and molecular characteristics of serrated lesions in Japanese elderly patients.	Digestion 2015, 91:57-63
3	小野寺馨	消化器内科学講座	Low-frequency IL23R coding variant associated with Crohn's disease susceptibility in Japanese subjects identified by personal genomics analysis.	PLoS One 2015, 10:e0137801
4	三橋慧	消化器内科学講座	Association of Fusobacterium species in pancreatic cancer tissues with molecular features and prognosis.	Oncotarget 2015, 6:7209-7220
5	伊藤美樹	消化器内科学講座	Association of Fusobacterium nucleatum with clinical and molecular features in colorectal serrated pathway.	Int J Cancer 2015, 137:1258-1268
6	伊早坂舞	消化器内科学講座	A screen for epigenetically silenced microRNA genes in gastrointestinal stromal tumors.	PLoS One 2015, 10:e0133754
7	五十嵐央祥	消化器内科学講座	Association of microRNA-31-5p with clinical efficacy of anti-EGFR therapy in patients with metastatic colorectal cancer.	Ann Surg Oncol 2015, 22:2640-2648
8	三橋慧	消化器内科学講座	Analysis of the molecular features of rectal carcinoid tumors to identify new biomarkers that predict biological malignancy.	Oncotarget 2015, 6:22114-22125

9	山本元久	免疫・リウマチ内科学	Identification of relapse predictors in IgG4-related disease using multivariate analysis of clinical data at the first visit and initial treatment.	Rheumatology (oxford) 2015, 54:45-49
10	山本元久	免疫・リウマチ内科学	Seasonal allergies and serial changes of serum levels of IgG4 in cases treated with maintenance therapy for IgG4-related disease.	Mod Rheumatol 2015, 13:1-2
11	山本元久	免疫・リウマチ内科学	Everyday clinical practice in IgG4-related dacryoadenitis and/or sialadenitis: results from the SMART database.	Mod Rheumatol 2015, 25:199-204
12	山本元久	免疫・リウマチ内科学	CCAAT/enhancer binding protein $\alpha$ (C/EBP $\alpha$ )+M2 macrophages contribute to fibrosis in IgG4-related disease?	Mod Rheumatol 2015, 25:484-486
13	山本元久	免疫・リウマチ内科学	Is rituximab effective for IgG4-related disease in the long term? Experience of cases treated with rituximab for 4 years.	Ann Rheum Dis 2015, 74:e46
14	山本元久	免疫・リウマチ内科学	Are Sjögren's syndrome and IgG4-related disease able to coexist?	Mod Rheumatol 2015, 25:970-971
15	Furuhashi M	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Possible Increase in Serum FABP4 Level Despite Adiposity Reduction by Canagliflozin, an SGLT2 Inhibitor.	PLoS One. 2016 Apr 28;11(4):e0154482-15.
16	Nishida J	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Does a Reduction in the Glomerular Filtration Rate Increase the Overall Severity of Coronary Artery Stenosis?	Internal Medicine. 2016;55(8):871-877
17	Furuhashi M	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Epicardial/Perivascular Fat and Macrophages Is Linked to Coronary Atherosclerosis.	Arteriosclerosis Thrombosis and Vascular Biology. 2016 May;36(5):825-834.

18	Yuda S	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Clinical implications of left atrial function assessed by speckle tracking echocardiography.	Journal of Echocardiography. 2016 Mar 7. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 26951561.
19	Furuhashi M	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Reduction of circulating FABP4 level by treatment with omega-3 fatty acid ethylesters.	Lipids Health and Disease. 2016 Jan 12;15:5-13.
20	Yano T	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Clinical impact of myocardial mTORC1 activation in nonischemic dilated cardiomyopathy.	Journal of Molecular and Cellular Cardiology. 2016 Feb;91:6-9.
21	Tatekoshi Y	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Successful diagnosis of pericardial rupture caused by blunt chest trauma using contrast ultrasonography.	Journal of Medical Ultrasonics (2001). 2016 Jan;43(1):95-98.
22	Kawamukai M	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Utility of three-dimensional transesophageal echocardiography for diagnosis of unroofed coronary sinus.	Journal of Medical Ultrasonics (2001). 2016 Jan;43(1):91-94.
23	Yano T	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Late gadolinium enhancement image masquerading as hypertrophic cardiomyopathy in Fabry disease receiving enzyme replacement therapy.	International Journal of Cardiology 2016 Jan15;203:136-137.
24	Tanaka M	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Impact of use of angiotensin II receptor blocker on all-cause mortality in hemodialysis patients: prospective cohort study using a propensity-score analysis.	Clinical and Experimental Nephrology. 2016 Jun;20(3):469-478.
25	Furuhashi M	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Reduction of serum FABP4 level by sitagliptin, a DPP-4 inhibitor, in patients with type 2 diabetes mellitus.	Journal of Lipid Research. 2015 Dec;56(12):2372-2380.
26	Yuda S	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Pericardial Effusion and Multiple Organ Involvement Are Independent Predictors of Mortality in Patients with Systemic Light Chain Amyloidosis.	Internal Medicine. 2015;54(15):1833-1840.

27	Ishiwatari H, Hayashi T, Yoshida M, Ono M, Sato T, Miyanishi K, Sato Y, Takimoto R, Kobune M, Kato J.	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine,	Phase I trial of oral S-1 combined with hepatic arterial infusion of gemcitabine in unresectable biliary tract cancer.	Cancer Chemother Pharmacol. 2015 Apr;75(4):805-12
28	Hoki T, Miyanishi K, Tanaka S, Takada K, Kawano Y, Sakurada A, Sato M, Kubo T, Sato T, Sato Y, Takimoto R, Kobune M, Kato J.	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University, School of Medicine,	Increased duodenal iron absorption through up-regulation of divalent metal transporter 1 from enhancement of iron regulatory protein 1 activity in patients with nonalcoholic steatohepatitis.	Hepatology. 2015 Sep;62(3):751-61
29	Hirayama Y, Ishitani K, Sato Y, Iyama S, Takada K, Murase K, Kuroda H, Nagamachi Y, Konuma Y, Fujimi A, Sagawa T, Ono K, Horiguchi H, Terui T, Koike K, Kusakabe T, Miyanishi	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine	Prevention of hepatocellular carcinoma: Focusing on antioxidant therapy.	World J Hepatol. 2015 Mar 27;7(3):593-9
30	Sakurada A, Hayashi T, Ono M, Ishiwatari H, Ogino J, Kimura Y, Kato J.	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine	A case of curatively resected gastric wall implantation of pancreatic cancer caused by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration.	Endoscopy. 2015;47 Suppl 1 UCTN:E198-9.
31	Sato Y, Sagawa T, Hirakawa M, Ohnuma H, Osuga T, Okagawa Y, Tamura F, Horiguchi H, Takada K, Hayashi T, Sato T, Miyanishi K, Takimoto R, Kobune M, Kato J.	Department of Medical Oncology and Hematology, School of Medicine, Sapporo Medical University	Clinical utility of capsule endoscopy with flexible spectral imaging color enhancement for diagnosis of small bowel lesions.	Endosc Int Open. 2014 Jun;2(2):E80-7
32	Ohnuma H, Sato Y, Hirakawa M, Okagawa Y, Osuga T, Hayashi T, Sato T, Miyanishi K, Kobune M, Takimoto R, Sagawa T, Hori M, Someya M, Nakata K, Sakata K, Takayama T,	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine	A Phase 1/2 Study of Definitive Chemoradiation Therapy Using Docetaxel, Nedaplatin, and 5-Fluorouracil (DNF-R) for Esophageal Cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2015 Oct 1;93(2):382-90
33	Kubo T, Kawano Y, Himuro N, Sugita S, Sato Y, Ishikawa K, Takada K, Murase K, Miyanishi K, Sato T, Takimoto R, Kobune M, Nobuoka T, Hirata K, Takayama T, Mori M,	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine	BAK is a predictive and prognostic biomarker for the therapeutic effect of docetaxel treatment in patients with advanced gastric cancer.	Gastric Cancer. Epub 2015 Oct 20
34	Horiguchi H, Kobune M, Kikuchi S, Yoshida M, Murata M, Murase K, Iyama S, Takada K, Sato T, Ono K, Hashimoto A, Tatekoshi A, Kamihara Y, Kawano Y, Miyanishi K, Sawada N, Kato J.	Department of Medical Oncology and Hematology, Sapporo Medical University School of Medicine	Extracellular vesicle miR-7977 is involved in hematopoietic dysfunction of mesenchymal stromal cells via poly(rC) binding protein 1 reduction in myeloid neoplasms.	Haematologica. Epub 2016 Jan 22.
35	Yokokawa K	札幌医科大学神経内科	Progressive multifocal leukoencephalopathy after autologous peripheral blood stem cell transplantation in a patient with multiple myeloma treated with combination therapy.	J Neurol Sci. 2016 Sep 15;368:304-6



36	Hisahara S	札幌医科大学神経内科	ANCA-negative granulomatosis with polyangiitis presenting with orbital apex syndrome and recurrent pachymeningitis: A case report..	J Neurol Sci. 2016 Sep 15;368:175-7
37	Fujikura M	札幌医科大学神経内科	A case of neuromyelitis optica presenting marked pleocytosis and hypoglycorrachia.	Rinsho Shinkeigaku. 2016 Aug 31;56(8):569-72
38	Matsushima A	札幌医科大学神経内科	Analysis of resources assisting in coping with swallowing difficulties for patients with Parkinson's disease: a cross-sectional study.	BMC Health Serv Res. 2016 Jul 18;16:276
39	Toyoshima T	札幌医科大学神経内科	Load effect on background rhythms during motor execution: A magnetoencephalographic study.	Neurosci Res. 2016 Jun 26. pii: S0168-0102(16)30085-2
40	Ito N	札幌医科大学神経内科	A novel nuclear DnaJ protein, DNAJC8, can suppress the formation of spinocerebellar ataxia 3 polyglutamine aggregation in a J-domain independent manner.	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Jun 10;474(4):626-33
41	Matsushima A	札幌医科大学神経内科	A Cross-Sectional Study on Socioeconomic Systems Supporting Outpatients With Parkinson's Disease in Japan	J Epidemiol. 2016
42	Nakamura Y	札幌医科大学神経内科	[A case of Marchiafava-Bignami disease suggesting vasogenic edema].	Rinsho Shinkeigaku. 2016;56(1):17-22.
43	Yamamoto D	札幌医科大学神経内科	Impaired post-tetanic potentiation of muscle twitch in myasthenia gravis.	Clin Neurophysiol. 2016 Feb;127(2):1689-93.
44	Fujikura M	札幌医科大学神経内科	A case of neuromyelitis optica presenting marked pleocytosis and hypoglycorrachia.	Rinsho Shinkeigaku. 2016 Aug 31;56(8):569-72

45	Suzuki S	札幌医科大学神経内科	Intravenous mesenchymal stem cell administration exhibits therapeutic effects against 6-hydroxydopamine-induced dopaminergic neurodegeneration and glial activation in rats	Neurosci Lett. 2015 Jan 1;584:276-81
46	Yamamoto D	札幌医科大学神経内科	[A case of atypical Tolosa-Hunt syndrome with a contrast enhanced lesion of the oculomotor and trigeminal nerves on MRI]	Rinsho Shinkeigaku. 2014;54(11):903-6
47	Matsumura A	札幌医科大学神経内科	Temporal changes of CD68 and $\alpha 7$ nicotinic acetylcholine receptor expression in microglia in Alzheimer's disease-like mouse models.	J Alzheimers Dis. 2015;44(2):409-23
48	Yokokawa K	札幌医科大学神経内科	[A case of dural arteriovenous fistula of right cavernous sinus presenting bilateral eye symptoms].	Rinsho Shinkeigaku. 2015;55(11):828-32
49	Matsumura A	札幌医科大学神経内科	Evaluation of oxidative stress in the brain of a transgenic mouse model of Alzheimer disease by in vivo electron paramagnetic resonance imaging.	Free Radic Biol Med. 2015 Aug;85:165-73
50	Iwahara N	札幌医科大学神経内科	A novel lamin A/C gene mutation causing spinal muscular atrophy phenotype with cardiac involvement: report of one case.	BMC Neurol. 2015 Feb 20
51	Hisahara S,	札幌医科大学神経内科	A heterozygous missense mutation in adolescent-onset very long-chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency with exercise-induced rhabdomyolysis.	Tohoku J Exp Med. 2015;235(4):305-10
52	Inoue S	札幌医科大学神経内科	[Dramatic seizure reduction with levetiracetam in adult Dravet syndrome: a case report].	Rinsho Shinkeigaku. 2015;55(3):151-4
53	Okita K, Mizuguchi T, Shigenori O, Ishii M, Nishidate T, Ueki T, Meguro M, Kimura Y, Tanimizu N, Ichinohe N, Torigoe T, Kojima T, Mitaka T, Sato N, Sawada N, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Pancreatic regeneration: basic research and gene regulation.	Surg Today. 2016; 46: 633-40.

54	Mizuguchi T, Torigoe T, Satomi F, Shima H, Kutomi G, Ota S, Ishii M, Hayashi H, Asakura S, Hirohashi Y, Meguro M, Kimura Y, Nishidate T, Okita K, Ishino M, Miyamoto A,	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Trials of vaccines for pancreatic ductal adenocarcinoma: Is there any hope of an improved prognosis?	Surg Today. 2016; 46: 139-48.
55	Imamura M, Kimura Y, Ito T, Kyuno T, Nobuoka T, Mizuguchi T, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Effects of antecolic versus retrocolic reconstruction for gastro/duodenojejunostomy on delayed gastric emptying after pancreatoduodenectomy: a systematic review and meta-analysis.	J Surg Res. 2016; 200: 147-57.
56	Kimura Y, Ito T, Imamura M, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Successful hybrid treatment for huge visceral artery aneurysms with contained rupture complicating segmental arterial mediolysis.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2015; 21: 814-6.
57	Kono T, Kondoh M, Kyuno D, Ito T, Kimura Y, Imamura M, Kohno T, Konno T, Furuhashi T, Sawada N, Hirata K, Kojima T.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Claudin-4 binder C-CPE 194 enhances effects of anticancer agents on pancreatic cancer cell lines via a MAPK pathway.	Pharmacol Res Perspect. 2015 Dec;3(6):e00196. doi: 10.1002/prp2.196.
58	Kyuno D, Ohno K, Katsuki S, Fujita T, Konno A, Murakami T, Waga E, Takanashi K, Kitaoka K, Komatsu Y, Sasaki K, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Laparoscopic-endoscopic cooperative surgery is a safe and effective treatment for superficial nonampullary duodenal tumors.	Asian J Endosc Surg. 2015; 8: 461-4.
59	Ishii M, Kimura Y, Sugita S, Imamura M, Ito T, Nobuoka T, Meguro M, Hasegawa T, Mizuguchi T, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Surgical and oncological impact of main pancreatic duct spread in invasive ductal adenocarcinoma: A clinicopathological study of 184 resected cases.	Pancreatol. 2015; 15: 681-7.
60	Furuhashi T, Okita K, Nishidate T, Hirata K, Ohnishi H, Kobayashi H, Kotake K, Sugihara K; Study Group for Peritoneal Metastasis from Colorectal Cancer by the Japanese Society	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Oncological benefit of primary tumor resection with high tie lymph node dissection in unresectable colorectal cancer with synchronous peritoneal metastasis: a propensity score analysis of data from a multi-institute database.	Int J Clin Oncol. 2015; 20: 922-7.
61	Kutomi G, Ohmura T, Satomi F, Maeda H, Shima H, Kameshima H, Okazaki M, Masuoka H, Sasaki K, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	A phase I study of combination therapy with nanoparticle albumin-bound paclitaxel and cyclophosphamide in patients with metastatic or recurrent breast cancer.	Int J Clin Oncol. 2015; 20: 474-9.
62	Furuhashi T, Okita K, Nishidate T, Ito T, Yamaguchi H, Ueki T, Akizuki E, Meguro M, Ogawa T, Kukita K, Kimura Y, Mizuguchi T, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Clinical feasibility of laparoscopic lateral pelvic lymph node dissection following total mesorectal excision for advanced rectal cancer.	Surg Today. 2015; 45: 310-4.

63	Mizuguchi T, Kawamoto M, Meguro M, Okita K, Ota S, Ishii M, Ueki T, Nishidate T, Kimura Y, Furuhashi T, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Impact of aging on morbidity and mortality after liver resection: a systematic review and meta-analysis.	Surg Today. 2015; 45: 259-70.
64	Mizuguchi T, Kawamoto M, Nakamura Y, Meguro M, Hui TT, Hirata K.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	New technique of extracorporeal hepatic inflow control for pure laparoscopic liver resection.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2015; 25: e16-20.
65	三品泰二郎	呼吸器外科	Total Thoracoscopic Anatomical Right S1a+S2a Bisubsegmentectomy	Jacobs Journal of Surgery 2015;2(3):023
66	Ogon I 他	整形外科	Analysis of chronic low back pain with magnetic resonance imaging T2 mapping of lumbar intervertebral disc.	J Orthop Sci 20:295-301, 2015.
67	Kanaya K 他	整形外科	Arthroscopically assisted osteosynthesis for osteochondral fracture of the triquetrum.	J Hand Surg Eur 40:420-422, 2015.
68	Ozasa Y 他	整形外科	Muscle-derived stem cell seeded fibrin gel interposition produces greater tendon strength and stiffness than collagen gel in vitro.	J Hand Surg Eur 40:747-9, 2015.
69	Iba K 他	整形外科	A functional test in assessment of hand dexterity in young children.	J Hand Surg Eur 41:352-3,2015.
70	Ogon I 他	整形外科	Sympathectomy and sympathetic blockade reduce pain behavior via alpha-2 adrenoceptor of the dorsal root ganglion neurons in a lumbar radiculopathy model.	Spine 40:E1269-E1275, 2015.
71	Okazaki S 他	整形外科	TLR4 stimulation and corticosteroid interactively induce osteonecrosis of the femoral head in rat.	J Orthop Res 6Feb;34:342-5,2015

72	Kanaya K 他	整形外科	Acid sensing ion channel 3 or P2X2/3 is involved in the pain-like behavior under a high bone turnover state in ovariectomized mice.	J Orthop Res 34:566-73,2016
73	Nagoya S 他	整形外科	Extraction of well-fixed extended porous-coated cementless stems using a femoral longitudinal split procedure.	Eur Orthop Traumatol 6:417-421, 2015.
74	Emori M 他	整形外科	Prognostic impact of CD109 expression in myxofibrosarcoma.	J Surg Oncol 111:975-979, 2015.
75	Ogon I 他	整形外科	Attenuation of pain behaviour by local administration of alpha-2 adrenoceptor antagonists to dorsal root ganglia in a rat radiculopathy model.	Eur J Pain 20:790-799,2016.
76	Irifune H 他	整形外科	Ipsilateral acetabular, femoral neck, and femoral shaft fractures.	Case Rep Orthop.2015; 2015:351465
77	Morita T 他	整形外科	Fracture Union and Quality of Life in Patients with Osteoporotic Vertebral Fracture Treated with Rigid or Soft External Support.	J Spine Research 6:125-131, 2015
78	Morita T 他	整形外科	Mapping occipital bone thickness using computed tomography for safe screw placement.	J Neurosurgery Spine 23:254-258, 2015
79	Kanaya K 他	整形外科	Traumatic partial through-the-elbow amputation with disarticulation of the humerus.	JBJS Case Connect 5:e8, 2015
80	Iba K 他	整形外科	Congenital Hand Committee of Japanese Society for Surgery of the Hand. The Classification of Swanson for Congenital Anomalies of Upper Limb Modified by the Japanese Society for Surgery of the Hand (JSSH).	Hand Surg 20:237-50, 2015.

81	Kanaya K 他	整形外科	Attrition rupture of the flexor pollicis longus tendon after arthrodesis of the trapeziometacarpal joint: A case report.	Hand Surg 20:474-476, 2015.
82	Iba K 他	整形外科	Correction of thumb angulations after physiolsis of delta phalanges in a child with Rubinstein-Taybi syndrome: a case report.	Cas Rep Plast Surg Hand Surg 2:12-14, 2015.
83	Murata K 他	整形外科	Effect of cryotherapy after spine surgery.	Asian Spine J 8:753-758, 2014.
84	Kaya M 他	整形外科	Bridging suture repair for acetabular chondral carpet delamination.	Arthosc Tech 4:e345-e348,2015.
85	Okazaki S 他	整形外科	Development of non-traumatic osteonecrosis of the femoral head requires toll-like receptor 7 and 9 stimulations and is boosted by repression on nuclear factor kappa B in rats.	Lab Invest 95:92-99, 2015.
86	Enatsu R	札幌医科大学脳神経外科	Intraoperative subcortical fiber mapping with subcortical-cortical evoked potentials.	World Neurosurg. 86: 478-483, 2016.
87	Ohtaki S	札幌医科大学脳神経外科	ACTC1 as an invasion and prognosis marker in glioma.	J Neurosurg. : 1-9, [Epub ahead of print] 2016.
88	Aoki H	眼科	Systemic Cyclosporine Therapy for Scleritis	Case Reports in Ophthalmology:20153 6,p.149-157
89	Okura M	皮膚科	Effects of rhododendrol and its metabolic products on melanocytic cell growth.	Journal of dermatological science

90	Hida T	皮膚科	Nagashima-type palmoplantar keratosis caused by compound heterozygous mutations in SERPINB7	European Journal of dermatology
91	Ishii-Osai Y	皮膚科	Infliximab treatment-induced paradoxical psoriasiform reaction in patient with psoriasis vulgaris showing positive lymphocyte transportation test reaction	Journal of american academy of dermatology
92	Kan Y	皮膚科	Successful treatment of pityriasis rubra pilaris with oral vitamin A in oil (Chocola A®) for an 18-month-old child	Journal of dermatology
93	Yamashita T	皮膚科	Diagnosis of eight groups of xeroderma pigmentosum by genetic complementation using recombinant adenovirus vectors	Journal of dermatology
94	Hagiwara K	皮膚科	Biochemical effects of the flavanol-rich lychee fruit extract on the melanin biosynthesis and reactive oxygen species	Journal of Dermatology
95	四ッ柳 高敏	形成外科	Abnormality of Auricular Muscles in Congenital Auricular Deformities	Plastic and Reconstructive Surgery 2015;136(1)166
96	Takahashi S	泌尿器科学講座	Serum antimicrobial concentrations for surgical antimicrobial prophylaxis in radical nephrectomy and radical prostatectomy.	J Infect Chemother 21: 464-467, 2015
97	Hiyama Y	泌尿器科学講座	Emergence of antimicrobial-resistant uropathogens isolated from pediatric patients with cystitis on daily clean intermittent catheterization.	J Infect Chemother 21: 703-706, 2015
98	Takayanagi A	泌尿器科学講座	Intravenous preload of mesenchymal stem cells rescues erectile function in a rat model of cavernous nerve injury.	J Sex Med 12; 1713-1721, 2015

99	Nishida S	泌尿器科学講座	Expression of hepatocyte growth factor in prostate cancer may indicate a biochemical recurrence after radical prostatectomy.	Anticancer Res 35; 413-418, 2015
100	Shindo T	泌尿器科学講座	Significance of intraprostatic architecture and regrowth velocity for considering discontinuation of dutasteride after combination therapy with an alpha blocker: A prospective, pilot study.	Korean J Urol 56; 305-309, 2015
101	Matsuki M	泌尿器科学講座	Serum cystatin C can be used as a marker of renal function even in patients with intestinal urinary diversion.	Asian Journal of Urology 2; 167-169, 2015
102	染谷 正則	放射線治療科	Relation between Ku80 and microRNA-99a expression and late rectal bleeding after radiotherapy.	Radiother Oncol, 2015;115:235-239.
103	Hayase T1, Sugino S1, Moriya H2, Yamakage M1.	1: Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University School of Medicine, 2: Department of Pharmacy, Hokkaido Pharmaceutical University School of Pharmacy.	TACR1 gene polymorphism and sex differences in postoperative nausea and vomiting.	Anaesthesia. 70(10):1148-59. Epub 2015 May 27.2015
104	Murouchi T, Iwasaki S, Yamakage M.	Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University School of Medicine.	Chronological Changes in Ropivacaine Concentration and Analgesic Effects Between Transversus Abdominis Plane Block and Rectus Sheath Block.	Reg Anesth Pain Med.40(5):568-71.2015
105	Kimijima T, Edanaga M, Yamakage M.	Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University School of Medicine.	Comparison of fluid leakage across endotracheal tube cuffs using a three-dimensional printed model of the human trachea.	J Anesth.30(3):510-3. Epub 2016 Jan 27.2016
106	Chaki T1, Sugino S1, Janicki PK2, Ishioka Y1, Hatakeyama Y1, Hayase T1, Kaneuchi-Yamashita M3, Kohri N2, Yamakage M1.	1:Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University School of Medicine, 2:Department of Anesthesiology, Penn State Hershey Medical Center, 3:Department of Clinical Pharmaceutics, Pharmaceutical	Efficacy and Safety of a Lidocaine and Ropivacaine Mixture for Scalp Nerve Block and Local Infiltration Anesthesia in Patients Undergoing Awake Craniotomy.	J Neurosurg Anesthesiol.28(1):1-5.2016
107	Takahashi K, Niiya T, Takada Y, Narimatsu E, Yamakage M.	Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University School of Medicine.	Severity of Myasthenia Gravis Influences the Relationship between Train-of-four Ratio and Twitch Tension and Run-down of Rat Endplate Potentials.	Anesthesiology.124(2):369-77.2016



108	Maruyama D, Hirata N, Tokinaga Y, Kawaguchi R, Yamakage M.	Department of Anesthesiology, Sapporo Medical University School of Medicine.	Nitrite Reduces Ischemia-Induced Ventricular Arrhythmias by Attenuating Connexin 43 Dephosphorylation in Rats.	Anesth Analg.122(2):410-7.2016
109	小林淳一、宮崎晃亘、平塚博義	口腔外科学講座	Spontaneous complete remission of methotrexate-associated extranodal B-cell lymphoma of the buccal mucosa	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, 27,677-681, 2015
110	五十嵐友彦、宮崎晃亘、出張裕也、荻 和弘、園田智子、四ツ柳高敏、平塚博義、	口腔外科学講座、形成外科教室、公衆衛生学講座	Quantitative analysis of frontal facial asymmetry for patients with hemifacial microsomia	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology, 27,764-769, 2015
111	Yasuda K.	第一病理	MAPK13 is preferentially expressed in gynecological cancer stem cells and has a role in the tumor-initiation	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Apr 15;472(4):643-7
112	Sakuma Y	分子医学部門	Prolyl isomerase Pin1 promotes survival in EGFR-mutant lung adenocarcinoma cells with an epithelial-mesenchymal transition phenotype	Lab Invest. 2016 Apr;96(4):391-8
113	Hirano H	病理診断学	Primary pulmonary Ewing sarcoma	Pathol Int. 2016 Apr;66(4):239-41
114	Sugita S	病理診断学	Angiomyxomatous tumor of the falx cerebri	Pathol Int. 2016 Jan;66(1):50-1
115	入船秀仁	救急医学講座	Ipsilateral acetabular, femoral neck, and femoral shaft fractures.	Case Rep Orthop. Epub 2015 Jun 10.
116	喜屋武玲子	救急医学講座	Severe accidental colchicine poisoning by the autumn crocus: A case of successful treatment	Journal of Acute Medicine (2015;5:e103-106

117	沢本圭悟	救急医学講座	TAKOTSUBO CARDIOMYOPATHY INDUCED BY SUICIDAL NECK HANGING	he Journal of Emergency Medicine,2015;48:e35-e38
118	宮田圭	救急医学講座	Therapeutic temperature modulation in severe or moderate traumatic brain injury: a propensity score analysis of data from the Nationwide Japan Neurotrauma Data Bank	J Neurosurg 2016;124:527-537
119	宮田圭	救急医学講座	Cervical spinal cord injuries associated with resuscitation from fatal circulatory collapse	J.Trauma 2002; 53: 1173-5.
120	長谷守	救急医学講座	Quality of bystander cardiopulmonary resuscitation- Can a smartphone bring about a revolution?-	irculation Journal. 2015 79(5): 964-5
121	Shinichiro Yoshida	集中治療医学	D-LACTATE IS A FEASIBLE BIOMARKER FOR DIAGNOSIS OF INTESTINAL ISCHEMIA IN THE ICU	Crit Care Med 43(12 Suppl 1),94-95,2015

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Murase H	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Inhibition of DPP-4 reduces acute mortality after myocardial infarction with restoration of autophagic response in type 2 diabetic rats.	Cardiovascular Diabetology. 2015 Aug 11;14:103-118.
2	Fumoto N	札幌医科大学神経内科	A novel LGI1 mutation in a Japanese Autosomal dominant lateral temporal lobe epilepsy (ADLTE) family	Neurology and Clinical Neuroscience.2016
3	Nakamura Y	札幌医科大学神経内科	Latitude and HLA-DRB1*04:05 independently influence disease severity in Japanese multiple sclerosis: a cross-sectional study.	J Neuroinflammation. 2016 Sep 6;13(1):239
4	Saito Y	札幌医科大学神経内科	Oxidation and interaction of DJ-1 with 20S proteasome in the erythrocytes of early stage Parkinson's disease patients.	Sci Rep. 2016 Jul 29;6:30793.
5	Inden M	札幌医科大学神経内科	$\alpha$ 4 nicotinic acetylcholine receptor modulated by galantamine on nigrostriatal terminals regulates dopamine receptor-mediated rotational behavior.	Neurochem Int. 2016 Mar;94:74-81
6	Watanabe K	札幌医科大学神経内科	The participation of insulin-like growth factor-binding protein 3 released by astrocytes in the pathology of Alzheimer's disease.	Mol Brain. 2015 Dec 4;8(1):82
7	Maesako M	札幌医科大学神経内科	High Fat Diet Enhances $\beta$ -Site Cleavage of Amyloid Precursor Protein (APP) via Promoting $\beta$ -Site APP Cleaving Enzyme 1/Adaptor Protein 2/Clathrin Complex Formation.	PLoS One. 2015 Sep 28;10(9):e0131199
8	Kato T	札幌医科大学神経内科	Alpha1-chimaerin, a Rac1 GTPase-activating protein, is expressed at reduced mRNA levels in the brain of Alzheimer's disease patients.	Neurosci Lett. 2015 Mar 30;591:19-24.
9	Niino M	札幌医科大学神経内科	Latitude and HLA-DRB1 alleles independently affect the emergence of cerebrospinal fluid IgG abnormality in multiple sclerosis.	Mult Scler. 2015 Aug;21(9):1112-20
10	Jingami N	札幌医科大学神経内科	Idiopathic normal pressure hydrocephalus has a different cerebrospinal fluid biomarker profile from Alzheimer's disease.	J Alzheimers Dis. 2015;45(1):109-15
11	染谷 正則	放射線治療科	Results and DVH analysis of late rectal bleeding in patients treated with 3D-CRT or IMRT for localized prostate cancer.	J Radiat Res, 2015;56(1);115:122-127.
12	小野寺 麻希	放射線診断科	The signal intensity ratio of the optic nerve to ipsilateral frontal white matter is of value in the diagnosis of acute optic neuritis	Eur Radiol:2016,26(8)2640-5
13	升田好樹	集中治療医学	心臓血管外科術後患者の輸液管理のポイント	達人ナース36(4),31-40,2015
14	巽博臣	集中治療医学	経腸栄養のモニタリング	救急集中治療 27(7-8),543-547,2015
15	巽博臣	集中治療医学	経腸栄養時の誤嚥の予防策	救急集中治療27(7-8),548-552,2015

16	巽博臣	集中治療医学	経腸栄養に関連する下痢と排便コントロール	救急集中治療 27(7-8),553-556,2015
17	升田好樹	集中治療医学	重症敗血症ではパルス療法を行わない	救急集中治療 27(11-12),935-944,2015
18	巽博臣	集中治療医学	こんなときどうする？～嘔吐、下痢、便秘のとき～	レジデントノート増刊 17(17),3172-3180,2016
19	長南新太	集中治療医学	ビデオ胸腔鏡下手術による頻回のドレナージにより救命し得た降下性壊死性縦隔炎の1例	麻と蘇生51(1-2),1-4,2015
20	君島知彦	集中治療医学	妊娠経過中に発症した劇症1型糖尿病の1例	日集中医誌 22(4),273-274,2015
21	君島知彦	集中治療医学	経皮的気管切開術施行時の腕頭動脈異常走行例の経験	日集中医誌 23(2),179-180,2016

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 1. 提出書類 2. 「研究実施計画審査申請書・実施計画書」記載要領	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 利益相反の対象者 利益相反管理の対象 利益相反管理委員会 利益相反管理の実施手続き など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 3 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の概要」 「人を対象とする医学系研究を進めるにあたっての注意点」	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<p>・後期研修・専門医制度プログラムは、専門医の取得を目指した研修です。そのため、志望する分野を専門とする診療科に所属し、基本的にその診療科を中心とする研修を受けていただきます。また、多くの学会の認定教育施設となっているため、複数の専門医資格を取得することも可能です。</p> <p>・領域 内科、皮膚科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、形成外科、病理、総合診療科（歯科口腔外科についても後期研修を行っています。）</p>
---

2 研修の実績

研修医の人数	203人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高橋 弘毅	内科	内科統括責任者	36年	
宇原 久	皮膚科	科長	31年	
竹政 伊知朗	外科	外科統括責任者	24年	
齊藤 豪	産婦人科	科長	30年	
氷見 徹夫	耳鼻咽喉科	科長	36年	
三國 信啓	脳神経外科	科長	28年	
山蔭 道明	麻酔科	科長	29年	
堤 裕幸	小児科	科長	38年	
河西 千秋	神経精神科	科長	27年	
山下 敏彦	整形外科	病院長	33年	
大黒 浩	眼科	科長	32年	
舛森 直哉	泌尿器科	科長	28年	
畠中 正光	放射線科	統括責任者	31年	
石合 純夫	リハビリテーション科	科長	34年	
成松 英智	救急	科長	30年	
四ツ柳 高敏	形成外科	科長	28年	
長谷川 匡	病理	科長	30年	
山本 和利	総合診療科	科長	38年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院病院長 山下 敏彦
管理担当者氏名	総務課長 小野田 弘義/病院課長 小野寺 誠司/医事相談センター長 土橋 和文/薬剤部長 宮本 篤/医療安全部長 土橋 和文/感染制御部長 高橋 聡/経営管理部長 土橋 和文

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院課、各診療科、カルテ庫、各診療関係部科  ・病歴資料については、診療科毎に作成しカルテ庫で管理(一診療科一カルテ) ・エックス線写真については、各診療科とカルテ庫において保管管理 ・診療録を病院外に持ち出すことは禁止している
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	各診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	病院課
		閲覧実績	—
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事相談センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営管理課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	経営管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課		



		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	経営管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	病院課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	病院課
		監査委員会の設置状況	病院課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事相談センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全部
		職員研修の実施状況	各関係部課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	各関係部課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 塚本泰司	
閲覧担当者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 小野田弘義	
閲覧の求めに応じる場所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課	
閲覧の手続の概要		
・ 開示（閲覧）請求の受付		
・ 開示（閲覧）について内部決定		
・ 指定した日時・場所において担当職員立会のもと開示（閲覧）		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>○「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」 医療の安全管理に関する基本方針を定めるとともに院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について 11 項目を規定している。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ H28. 2. 23 3-1「医療事故等に関する報告制度」の改正し、死亡事例について院内で死亡した全ての事例（原疾患の自然経過によるものも含む）を報告することを明記した。</li><li>・ H28. 10. 1 特定機能病院の承認要件変更による改正。</li></ul> <p>1 総則 2 医療安全管理のための組織体制 3 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 4 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 5 安全管理のための職員研修の実施 6 医療事故発生時の対応方法 7 公表 8 患者相談窓口の設置 9 安全な医療を提供するためのマニュアル・ガイドライン 10 本指針の閲覧 11 附則</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況（平成 27 年度）	
<p>・ 設置の有無（ 有 ）</p> <p>・ 開催状況：年 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>○医療事故防止対策委員会（定例）年 12 回 医療事故の原因分析・再発防止策等の検討を実施</p> <p>○安全対策委員会（定例）年 12 回 インシデントの原因分析・再発防止策の検討、マニュアル等の検討</p> <p>*各検討結果を現場へフィードバックし、周知徹底を図っている。</p> <p>○リスクマネージャー連絡会議（定例）年 4 回 インシデントの周知徹底を図り注意喚起した。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況（平成 27 年度）	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○全職員を対象とした安全対策研修会 年 5 回（講演会 2、医薬品 1、トピックス研修会 2）</p> <p>○全職員を対象とした BLS・AED 講習会 年 5 回</p> <p>○全職員を対象とした ICLS 講習会 年 1 回</p> <p>○その他医師、看護師・看護助手を対象とした研修会 年 7 回（トピックス研修会 5、気づきの研修 1、PICC1）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有 ）</p> <p>○「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」において、既存の事故等の区分を 6 段階にレベル分けし、院内報告の仕方や取り扱いを明らかにするとともに再発防止策の検討方法を規定したことに加え、死亡例全例の医療安全への報告体制を規定した。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○医療安全確保のための業務改善計画書に基づく巡回点検の実施 今年度も各部署において「医療安全確保のための業務改善計画書」作成し実施する。 診療部門では、インフォームドコンセントの適正な診療録への記載・患者誤認防止対策の取り組み・5S 活動の実施の 3 項目について取り組みをする。看護部門では、インフォームドコンセント</p>	

後の患者家族の反応とケアの記録・患者誤認防止対策の取り組み・5S活動の実施の3項目について取り組みをする。中央部門・事務部門においても、患者誤認防止対策の取り組みまたは自部署で考える院内安全対策への取り組み・5S活動を重点に行う。実施状況については、安全対策委員会にて病棟巡回・外来巡回で確認するとともに、医療防止対策委員会においても2月頃に巡回し評価を行う。

○安全対策委員会において、医療安全対策マニュアルポケット版第6版の発行に向けて内容の精査を行い全職員に配布を行った。また、例年通りマニュアルの実施状況調査として手術部位誤認防止調査、侵襲的な検査処置での患者誤認防止調査及び院内巡回を行っている。

○医療安全推進週間の開催

昨年度も医療安全対策に関し、医療関係者の意識の向上、また、医療機関における組織的取組の促進などを図る目的で開催した。取組内容は、「医療安全講演会」「PICCカテーテルハンズオントレーニング～安全なエコー下手技～」「気づき研修」「医療安全大賞」。今年度も医療安全講演会をはじめ、各種企画を実施する予定。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：「札幌医科大学附属病院院内感染対策指針」</li></ul> <p>札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規定したものである。院内感染対策についての意識の向上に資するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>院内感染対策に関する基本的考え方</li><li>院内感染対策のための管理体制・組織</li><li>院内感染対策のための職員研修</li><li>感染症の発生状況の報告</li><li>院内感染発生時の対応</li><li>患者等に対する本指針の閲覧</li><li>その他の院内感染対策の推進</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>院内における感染情報の周知及び分析</li><li>感染防止の対応報告及び検討・原因究明</li><li>抗菌薬使用状況</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>病院感染対策講習会 3回：全職員を対象とする</li><li>清掃委託業者における病院感染対策講習会 3回：清掃委託業者全員を対象とする</li><li>研修医への講義 1回：新規採用研修医を対象とする</li><li>新規採用看護師への講義 1回：新規採用された看護師全員を対象とする</li><li>中途採用者への講義 11回：年度途中に採用された職員全員を対象とする</li><li>看護補助者への講義 1回：看護助手全員を対象とする（同内容で3回実施）</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 (有)</li><li>「感染症発症連絡票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている</li><li>検査部（細菌検査）からの報告を、感染対策ソフトも用いて院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者などへ詳細報告を求めている</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>感染制御チームを設置し、院内感染の状況、抗菌薬適正使用、診断に必要な検体採取状況、職員の感染対策実施の状況などを把握し、適宜介入を行っている</li><li>定期広報紙を発行し、院内および市中における感染情報や対策などについて注意喚起をしている</li><li>感染制御チームによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている</li><li>病院感染対策マニュアルを随時改訂し、紙ファイル以外に、電子カルテ端末へ掲載し、閲覧しやすくしている</li><li>当院における1年間の分離株薬剤感受性率表「アンチバイオグラム」をポケット版で作製し、抗菌薬の適切な選択をしやすくしている</li></ul></li></ul>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○平成27年度トピックス研修会（各2回、全6回） 「血液をさらさらにする薬の話」 講師：第二内科講師 「抗がん剤漏出の対策と対応」・「抗がん剤投与ルートを選択」 講師：第四内科准教授・がん化学療法看護認定看護師 「エビデンスに基づいた医薬品の安全管理・危機管理2015」 講師：医薬品安全管理責任者、薬剤部長</p> <p>○平成27年度医薬品・医療機器安全管理研修会 「医薬品・医療機器の安全管理ー最近の事例とその対策ー」 講師：医薬品医療機器総合機構 石井健介</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い（収集・提供）、他施設との連携</p> <p>○手順書に基づく業務評価</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○ハイリスク薬の管理・取扱い：院内周知及び管理状況の確認</p> <p>○麻薬・向精神薬の適正使用の推進：重複処方等の調査・指導（四半期毎）</p> <p>○がん化学療法：プロトコール申請及びレジメン入力の実施、薬剤部でのミキシング</p> <p>○医薬品医療機器総合機構等からの通知や他施設での事故：該当事例について検討し改善を図る</p> <p>○医薬品の安全使用のための手順書の業務評価に基づく改善策の実施</p>	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 回
・ 研修の主な内容： 人工心肺装置及び補助循環装置（2回） 人工呼吸器（2回） 血液浄化装置（2回） 除細動器（2回） 閉鎖式保育器（2回） 診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置（2回）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有)	
・ 保守点検の主な内容：	
指定機器	指定機器以外
・人工心肺装置及び補助循環装置 6件	・在宅療法貸貸作医療機器 25件
・人工呼吸器 42件	・その他(在宅除く) 31件
・血液浄化装置 13件	
・除細動器(AEDを除く) 18件	
・閉鎖式保育器 10件	
・診療用高エネルギー放射線発生装置 3件	
・診療用放射線照射装置 1件	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
「医療機器安全対策実施要領」に基づき対応している。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>○医療安全管理責任者は当院における医療安全の総括的な責任を負うものとし、医療安全担当の副院長とした。医療安全管理責任者は、医療安全管理体制における医療事故防止対策委員会等、医薬品管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括する役割を規定した。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 5 名 )
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業等からの最新情報を日常的に収集し、緊急安全性情報や安全性速報が発出された際は速やかに医師等に周知している。また、DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、Drug News など緊急性を要しないものは定期的に、製品切替や回収等はその都度、紙・電子媒体で周知している。これらは電子カルテからも閲覧できるようにしており、周知状況に関しては病棟担当薬剤師が確認することとしている。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認薬を使用する際は自主臨床研究 (院内製剤含む) として事前に臨床研究審査委員会の承認を必須条件としており、適応外使用や禁忌に関しては臨床倫理委員会で審議する体制を本年 10 月稼働予定で進めている。また、これらの院内使用状況を定期的に確認し医薬品安全管理責任者に報告するとともに必要時には院内もしくは特定の診療科に情報提供を行うこととした。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 ( 有 )</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( 有 )</p> <p>・ 規程の主な内容 :</p> <p>医療者が医療行為に関わる情報を患者に理解できる言葉や環境の中で提示し、患者はその十分な理解の下に自由意志によって医療の選択を行うことができる。医療者と患者が医療に関する情報を共有し、合意に基づいて医療に関わる意志決定を行うプロセスの中で実現することが重要である。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<p>・ 活動の主な内容 :</p> <p>○診療録管理委員会の委員長を責任者とすることを 8 月の診療録管理委員会で承認した。</p> <p>○質的監査を企画・実施中。</p>	



⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（４）名、専任（ ）名、兼任（５）名 <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名</li> <li>うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（１）名</li> <li>うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</li> <li>うち事務職：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名</li> <li>うちメディカルスタッフ： 兼任（１）名</li> </ul> </li> <li>・活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○医療の安全を確保するための改善方策に関すること</li> <li>○医療安全管理のための教職員の教育と啓発に関すること</li> <li>○医療事故発生時の対応に関すること</li> <li>○医療事故防止対策委員会等の円滑な運営に関すること</li> <li>○医療安全管理に関する院内の連絡調整</li> <li>○その他の医療安全管理に関する処務</li> </ul> </li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成２９年度の組織機構改正時に、医療安全部専従薬剤師を配置予定。</li> </ul>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 無 ）</li> <li>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 無 ）</li> <li>・規程の主な内容：</li> <li>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 無 ）</li> <li>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ）</li> </ul>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 無 ）</li> <li>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 無 ）</li> <li>・規程の主な内容：</li> </ul>	

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有 ）

⑨ 監査委員会の設置状況

無

- ・ 監査委員会の開催状況：年 回
- ・ 活動の主な内容：

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ 無 ）
- ・ 委員名簿の公表の有無（ 無 ）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（ 無 ）
- ・ 公表の方法：

監査委員会の設置に向けて委員の選任作業を行っており、経過措置期間内に委員会の設置を予定している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 8 件（平成 27 年度実績）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 100 件（平成 27 年度実績）
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容  
医療事故を防止し安全な医療を提供する環境を整えることを目的として以下の活動を行っている。
  - 情報の収集及び提供
  - 発生原因の分析並びに発生防止のための具体策の検討及び指導
  - 発生防止に係る診療科等での措置状況の確認
  - 発生防止に係る研修及び教育
  - その他の医療事故の発生防止に係る事項

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（ 無 ）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（ 無 ）
- ・技術的助言の実施状況  
全国公立大学附属病院長会議（9 大学で組織）において枠組みを検討中である。  
特定機能病院間相互ピアレビューについては、その手法を国の法で検討会を開催中であり、その方針を踏まえて対応する。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況  
患者相談窓口を医事相談センターに設置し、患者・家族からの相談に応じる。また、医療安全に関する相談には、医療安全管理者等が対応する。なお、安全対策が必要な場合は、医療事故防止対策委員会において協議し対応する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有 ）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ 有 ）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有 ）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況  
4 月 14 日、18 日 トピックス研修会「院内感染対策について」「当院の医療安全対策について」  
5 月 18 日、24 日 トピックス研修会「放射線検査を安全に行うために」  
6 月 6 日、14 日 トピックス研修会「B 型肝炎の再活性化と当院の現状」  
7 月 26 日 医療安全講演会「患者・市民と創る医療安全～患者のための I C ・カルテ開示・事故調査とは～」

9月5日、15日 トピックス研修会「RSTって何？安全な人工呼吸器管理を中心に」

7月6日、8月17日、9月14日 BLS・AED講習会

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

年度内に厚生労働省から研修の提示がある予定であり、提示を踏まえて対応する。

なお、医療安全部副部長が、国公私立大学附属病院医療安全セミナー（大阪開催）に参加し、医療安全管理者養成研修会（名古屋開催）に参加する。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関：日本医療機能評価機構 時期：平成 26 年 9 月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト 内容等の概要：本院の役割や診療機能、医療技術など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 緩和ケア診療、女性外来	

(様式第 8)

医大病第 380 号  
平成 28 年 9 月 9 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院  
開設者名 理事長 塚本 泰司 印

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

## 記

### 1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

安全管理指針を平成28年9月の病院運営会議において、次のとおり改正措置する予定。

医療安全管理体制において、医療安全担当の副院長を医療安全管理責任者とする。  
医療安全管理責任者は、医療安全管理体制における、医療事故防止対策委員会等、医薬品管理責任者（薬剤部長）、医療機器安全管理責任者（臨床工学部長）を統括する役割を規定する。

### 2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

(ア)以下の項目について2016年9月中に手順書を改正する予定。

- ・手順書の「医薬品の採用・購入に関する項目」に以下を追記する。  
「未承認薬等（未承認薬・適応外・禁忌等）は、院内ルールに従い使用すること。」
- ・手順書の「医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い」に以下を追記する。  
「未承認薬等の院内使用情報を定期的に確認し、医薬品安全管理責任者に報告する。」  
「未承認薬等の使用に関し、必要時に院内もしくは特定の診療科に情報提供を行う」  
「医薬品情報の周知状況の確認は、診療科担当薬剤師等が行いその内容を記録する。」

(イ) 未承認薬等の院内ルールは、2016年9月中に作成する予定。

(ウ) 変更した手順書に従う業務は、2016年9月中に随時実施する予定。

### 3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

インフォームド・コンセントのための基本指針を平成28年9月の病院運営会議において、次のとおり改正措置する予定。

インフォームド・コンセントに係る責任者は、医療安全管理責任者とする。

#### 4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

インフォームド・コンセントのための基本指針を平成28年9月の病院運営会議において、改正措置する予定。

#### 5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

診療録管理委員会の委員長が、診療録等の管理に関する責任者とする旨を、平成28年9月の診療録管理委員会で定める。

#### 6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するため予定措置

札幌医科大学附属病院の安全管理指針および医療安全対策マニュアルを平成28年4月1日に改正し、次の通り措置済み。

1. 全死亡事例を医療安全部へ退院サマリーを持って報告する。医療安全部で、1ヶ月毎に死亡全事案についてカルテレビューと協議を行い、病院長へ報告し、医療事故防止対策委員会及びリスクマネージャー連絡会議で情報提供する。
2. インシデント・アクシデントレポート報告を各傷害レベルで事案の報告を受けている。
3. 報告事案については、医療安全部および、医療事故防止対策委員会で改善策等を協議し、リスクマネージャー連絡会議を通して、全職員へ周知する。
4. 各委員会、会議の議事録をもって病院長へ報告する。
5. インシデント・アクシデントレポート報告が不十分な場合は、個別に医療安全部副部長およびGRMにより、レポートシステムでコメント入力または、直接面談し聞き取り、指導する。

#### 7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

内部通報窓口を設置するための「大学における公益通報者保護等に関する要綱」を平成28年6月1日に制定した。リスクマネージャー会議等で内部通報窓口に係る周知を行っている。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

平成28年6月に、医療安全部と肝疾患センターとの協働により、免疫抑制療法及び化学療法等によるB型肝炎ウイルス再活性化防止に関する医療安全対策マニュアル実施状況について、講演会での周知、抗体検査実施状況調査を実施し、結果を院内へ周知している。平成28年10月より、電子カルテシステムでの診療支援システムの稼働（必要な検査のモニタリング）を予定している。  
平成28年度より、医療安全eラーニングシステムを稼働させ、講演会の視聴及びアンケートにより職員の医療安全意識の向上の状況確認をする予定。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置については、既存の組織の活用又は組織の新設について検討し、平成29年3月末までに行う。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程については、平成29年3月末までに整備する。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置については、既存の組織の活用又は組織の新設について検討し、平成29年3月末までに行う。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程については、平成29年3月末までに整備する。



13. 監査委員会を設置するための予定措置

監査委員会の設置に向けて委員の選任作業を行っており、経過措置期間内に委員会の設置を予定している。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

全国公立大学附属病院長会議（9大学で組織）において枠組みを検討中である。  
特定機能病院間相互ピアレビューについては、その手法を国の方で検討会を開催中であり、その方針を踏まえて対応する。

15. 職員研修を実施するための予定措置

安全管理指針に基づき、平成28年度の医療安全に関する職員研修計画に基づいて、実施中。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

年度内に厚生労働省から研修の提示がある予定であり、提示を踏まえて対応する。

17. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（ 4 ）名、専任（ ）名、兼任（ 5 ）名 兼務（14）  
うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名 兼務（3）  
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名  
うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 兼務（3）  
うち事務職：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 兼務（4）  
うちメディカルスタッフ： 兼任（ 1 ）名 兼務（4）

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成29年度の組織機構改正時に、医療安全部専従薬剤師を配置予定。